

## ヨコヤマヒゲナガカミキリ [コウチュウ目カミキリムシ科]

(学名: *Dolichoprosopus yokoyamai*)

(写真・文 緒勝祐太郎)



◀ 雌はブナの根際の樹皮をかじり、そこに産卵する



◀ 成虫は羽化後、脱出するとき根際に丸い穴をあける

盛夏から秋口にかけて、生き物たちが様々な環境で賑わいを見せるなか、深奥のブナ林でひっそりと暮らす昆虫がいます。ヨコヤマヒゲナガカミキリは、幼虫も成虫もブナとイヌブナの生木しか食べません。体は黒色の下地に白く細かい毛が密生しており、ブナの樹皮と同調した色合いが特徴的なカミキリムシです。

ヨコヤマヒゲナガカミキリは日本特産種で本州、四国、九州に広く分布しますが、自然度の高いブナ林にしか生息しない珍しい種です。成虫は体長3cm前後と比較的大きく、主に8月から9月にかけて出現します。生木の幹内で羽化した後、根際に直径1cm程度の丸い穴だっしゅつこう（脱出孔）をあけて出てきます。日中はブナ林の梢で細い枝を食べていますが、夕刻になると、雌は幹をつたって根際まで下りてきて産卵します。そのため、夕暮れどきに森を歩いていると、ブナの地際部を徘徊している姿を見かけることがあります。

ブナ林が卓越する只見町では、ヨコヤマヒゲナガカミキリは町内全域で見られます。奥山だけでなく集落近くの森林でも比較的大きなブナが複数あれば生息しており、この虫にとって好適な環境が広く残されていることが分かります。このように、ブナと密接な関わりを持つ本種は、只見を代表する昆虫の一つと言えるでしょう。

### 只見町ブナセンターからのお知らせ

只見町ブナセンター附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」では、下記の通り企画展「只見の養蚕」を開催しております。実際にカイコの生体も展示しておりますので、お問い合わせのうえ、ぜひお越しください。

**企画展「只見の養蚕」**

会期: 2020年7月4日(土)~2020年10月5日(月)  
場所: ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー